

## 2019 世界時間生物学会連合大会 (5th WCC) 参加報告

高 天翔 <sup>✉</sup>

名古屋市立大学 薬学研究科 神経薬理学分野

2019年4月、第五回世界時間生物学会連合大会が中国 蘇州にて開催されました。世界中から約400人の研究者が集まり、まさに時間生物万博といえる会でした。今回、私はこの大会に参加する機会を得て、さらに学会誌で報告の機会をいただき、大変光栄と思います。また、アショフ・ホンマ記念財団からトラベルグラントを提供していただき、感謝の気持ちを深く申し上げます。

筆者は中国出身の留学生ですが、母国での学会参加は初めてのことであり、とても新鮮でした。最初に、母国の学会の常識を軽く説明します。昔は、中国の学会という組織は、日本と違って、相当緩い組織でした。学术交流を目的とするものとはいえ、教育と政治を両立した組織という方が適当でした。特に、ほとんどの教科書編纂は、学会が責任を負って出版まで行うので、初期の学会は編纂委員の集会でした。今までは、研究者が小規模だったため、大学院生や若手研究者の参加は少なく、学术交流の雰囲気も日本ほどの“高濃度”ではありませんでした。しかし、最近の五年、上の人たちや海外留学したシニア研究者たちはこの問題を反省して、今では、大きい学会では、学术交流を目的とする集会もようやく出来てきました。今回の学会でも、学部生向けのトレーニングコースが用意され、より若い学部生などの参加を狙っています。実際、参加する学生に聞いたところ、このコースは蘇州大学学内に相当人気があり、単位は取れないですが、修了証は交付するそうです。政治の方では、今回の世界時間生物学会と共催するのは、中国細胞生化学会の下にあるリズム研究会の委員会委員選挙なので、QRコードを全参加者会員に配布し、その場で次期の会長と委員会会員を決める仕組みとなりました。

Keynoteの基調講演以外に、16個のセッションに分けられていて、40%くらいは中国の発表者だったので、中国において時間生物学やリズム研究の発展を概ね把握できました。そして、予想通り、臨床や応用向けの研究がより多くありました。臨床研究は悪くはな

いが、基礎研究は大変足りないと考えていましたが、最終日の最後のkeynoteセッションのLuo Minmin先生の講演を聞き、“中国の基礎研究の火はこれからだ”と思いました。各遺伝学操作を利用し、背側縫線による報酬処理を網羅的に解明する研究は、時間生物学やリズムの研究と、直接的な関連はありませんが、非常にまとまったレクチャーで、結果やdiscussionのやり方も詳しく美しく感じ、心を動かされました。

ポスターでは、認知症病因タンパクであるタウのシヨウジョウバエの睡眠における機能解析の研究を発表いたしました。ドキドキしながら、2時間に渡って、半分英語、半分中国語で示説しました。これまでの日本国内の日本語による発表と違い、途中で専門用語の中国語を想起できなくなることが多くて、発表後かなり反省しました。母国語の怠学は言い訳さえない非常に恥ずかしいことで非常に貴重な経験でした。

ランチの時に、私の指導教員の糸教授の友人で世界時間生物学会主席のTill先生と会い、興味深い議論を聞きました。それは、美しさと幸せの関係で、同席した企業の人が、事業を簡単に紹介した時、美は人間を幸せにする力があると語ったことに対し、Till先生は突然、美と幸せは矛盾であり、不幸に導くこともあるのではないかと突っ込んでいました。Till先生は、実験に限らず、日常生活も研究思考の範囲内だと思いました。個人的には、幸せは美に導くことができるが、単純な美は中性で純粋なもので、別に幸せと関係ないと思います。

大会のソーシャルアクティビティは蘇州の旧市街観光で、ガイドさんの英語の流暢さと蘇州市内の渋滞のひどさが印象的でした。現代的な街の中で、古い街並みを散策して楽しみ、不思議な雰囲気でした。筆者は、来日3年目で、近年の中国の急速な変化を受け止められていません。シェア自転車、シェアモバイルバッテリー、電気自動車、QRコードによる電子マネー決済の急拡大などは、見るごとに新鮮な感興でした。特に、欧米の架空ドラマで現れるようなビッグデータに

よる即時顔認識システム”天の眼システム”は中国で成熟度が高い公安システムです。横断歩道で信号無視をする行為さえ、交通法違反犯罪として現場で即時認識し、交差点の大型モニターで、違法者の名前と国民IDを公示していて、まるでSFの世界のようでした。いいか悪いかは別ですが、研究者としては、”技術に罪なし”の名言を信じ、将来の明るく発展する中国社

会を期待しています。

末筆ですが、多くの日本時間生物会員の皆さんに中国にお越しいただき、誠に感謝いたします。まだまだ学会の準備では、残念なところがありますが、若い中国リズム学会のご理解をお願いします。筆者自身は責任者ではありませんが、いつか、この領域で活躍できるよう、その日まで、頑張りたいと思います。



ソーシャルアクティビティ@蘇州拙政園一連 (右から2番目が筆者)



集合写真 (一列左から3番目は大会長の Xu Ying 先生、4番目は Till 先生)